

## 編集後記

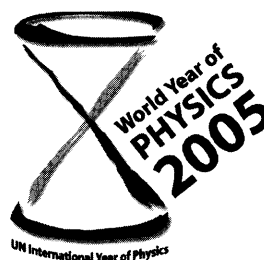
ご存じの方も多いと思いますが、今年(2005年)は世界物理年です。アインシュタインが1905年に光量子説、ブラウン運動の理論、特殊相対性理論の3つの革命的な論文を発表してから100年を経たことを記念し、IUPAP(国際純粋応用物理学連合)が本年を世界物理年(World Year of Physics, 略してWYP2005)とすることを決定しました。さらに、国際連合の決議により、国連も今年を“UN International Year of Physics”とすることを宣言しています。WYP2005のホームページ(<http://www.physics2005.org/>)によれば、WYP2005は物理学に対する一般の人々の意識を高揚させることを目的としています。当学会でもアインシュタインとはつながりの深い学問分野ということで、これに賛同しており、関連行事を検討中とのことです。

何時しか高校生の理系離れが指摘されていますが、かく言う私の高校生時代も、物理学は苦手教科でした。しかし、大学生時代に、多様な自然現象は物理学の基本法則で説明できることを理解し、自分で実験を行い、それを確かめるプロセスから物理学の魅力をほんのわずかですが感じとれた気がしました。私の体験を踏まえ、理系離れには、自分

でやってみて面白いと感じること、自分で考えその現象を理解するプロセスを体験するチャンスが必要ではないかと感じています。当学会では、小川雄一前理事や岡野邦彦理事が中心となってスーパーサイエンスハイスクール参加校との連携強化に努めており、次世代の若者にプラズマを介して科学を知る喜びと楽しさが伝えられ、着実に成果が得られています(2004年10月4日付中日新聞朝刊「EDUCATION “火花” 散るプラズマ議論」参照)。WYP2005である本年は、このような活動がさらに加速することを期待しております。

話は変わって、国際熱核融合実験炉(ITER)の誘致の問題は、未だ混沌としていますが、今年にはこの問題が決着し、ITERのプロジェクトが本格的に始動し、核融合研究にとっても記念すべき年になるよう願ってやみません。

(波多江仰紀)



### プラズマ・核融合学会役員

会 長	高村 秀一	副会長	山中 龍彦	藤原 正巳	常務理事	岡村 昇一(総務委員長)
理 事	榎戸 武揚(広報委員長)	岡野 邦彦	尾崎 章(財務委員長)	田中 和夫(プログラム委員長)	永見 正幸	堀岡 一彦(広告委員長)
	際本 泰士	佐藤浩之助	長 照二(出版委員長)	島山 力三	吉田 善章(編集委員長)	藤山 寛
	田辺 哲朗	二宮 博正	松岡 啓介(企画委員長)	長谷川 満		
監 事						

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 吉田善章(東大新領域)

エディター 関子秀樹(九大)、関 昌弘(原研)、田中雅慶(核融合研)、西村博明(阪大)、福山 淳(京大)、藤山 寛(長崎大)

編集委員 相澤正満(日大量科研)、安藤利得(金沢大院理)、井深真治(東工大院理工)、岩前 敦(京大院工)、江角直道(長野高専)、遠藤琢磨(広大院工)、粕谷俊郎(同志社大工)、菅野龍太郎(核融合研)、近藤公伯(阪大院工)、榎田 創(産総研)、篠原俊二郎(九大院総理工)、清水勝宏(原研那珂)、下妻 隆(核融合研)、鈴木 哲(原研那珂)、鈴木千尋(核融合研)、高杉恵一(日大量子研)、力石浩孝(核融合研)、波多江仰紀(原研那珂)、服部邦彦(東北大院工)、林康明(京都工繊大)、檜垣浩之(筑波大プラズマ)、松本和憲(富山県大工)、南 貴司(核融合研)、村上定義(京大院工)、森下和功(京大エネ理工研)、山本 靖(京大エネ理工研)、湯上 登(宇都宮大院工)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第81巻第1号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階  
社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会  
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485  
E-mail: jspf@nifs.ac.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/>

印刷 株式会社荒川印刷  
2005年(平成17年)1月25日

定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月、第1金曜日に開かれています。但し、第1金曜日が休日あるいは5日以降の場合はその前週の金曜日に開かれます。